

【ポスター発表】

ソーシャルメディアはどこまでソーシャルワークたりうるか

ー海外事例の検討を踏まえてー

○ 関西学院大学客員研究員 宮崎 康支 (009599)

神徳 和子 (福岡大学・010016)

キーワード3つ：ソーシャルメディア、社会的孤立、メディアリテラシー

1. 研究目的

本研究の目的は、ソーシャルメディアが持ちうるソーシャルワーク的機能の可能性と限界を、海外の既往事例の検討を通じて明らかにすることである。

ソーシャルメディアとは、総務省による『平成29年 通信利用動向調査』の定義によれば、「ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、動画共有サイトなど、利用者が情報を発信し、形成していくメディア」（総務省, 2018; ページ数記載なし）である。

ソーシャルメディアの普及は若年者を中心に広がっており、ソーシャルメディアやスマートフォンは、若年者にとって日常的な道具であることが明らかである。このことは、ひきこもりや児童養護施設卒業者のアフターケアなどといった社会的孤立の防止や、若年者を含む市民が直面する社会的課題を乗り越える道具として、ソーシャルメディアの有効活用にソーシャルワークの活路を見出すことができるとも示唆している。『月刊福祉』2023年11月号においても「デジタルでつながる福祉」と題した特集が生まれ、デジタル技術が若年者を含むソーシャルワークにおける広報や相談支援の在り方を変えつつあることが指摘されている(宮本, 2023:11)。

近年、ソーシャルメディアを用いたソーシャルワークも世界的には活発に行われるようになってきているが、その有効性を検証した研究は日本国内では端緒についたばかりともいえる。そこで本報告では、海外のソーシャルワークにおけるソーシャルメディア活用実践に着目し、既往研究のレビューを通じた課題の抽出を試みる。

2. 研究の視点および方法

本研究は、若年層の社会的孤立予防を企図した今後の理論検討およびソーシャルネットワーキングサービスの開発を見据えてのパイロットスタディとしての位置づけである。

第一著者が所属する機関が契約している Web of Science にて、検索窓に "social media"、"social work"、そして "case study" の 3 つの検索語を入力し、文献を検索した。出版年の指定はしていない。検索の実施日は 2024 年 5 月 29 日である。この検索の結果、24 の文献が抽出された。第一著者の所属する機関のネットワークを通じて電子媒体で入手できた 14 件の論文を 2 名の著者で分担精読し、協議を通じて論点を抽出した。

3. 倫理的配慮

本研究は文献研究であり、人を対象とする研究倫理審査を受審したものではない。しか

し、研究の遂行にあたっては「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程」を遵守し、文献の引用にあたっては著作権とプライバシーに最大限の配慮を払った。また、自説と他説を峻別した。本稿の作成にあたっては、その内容について全報告者間で同意を得た。本報告に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はない。

本報告は JSPS 科研費 JP23K01882 の助成による研究成果の一部である。

4. 研究結果

レビューした論文の事例は、米国、チリ、香港、スロバキア、ルーマニア、そして英国より収集された。分野は児童、若者、COVID-19、犯罪、女性の権利、看護教育、移民、そして自殺など多岐にわたる。その分析の射程は、大きく分けると（1）ソーシャルメディアの有用性と、（2）ソーシャルメディアを用いるにあたってのメディアリテラシーの涵養の必要性に纏められる。（1）については、たとえば香港において行われている若者支援の事例が参考になる。Chan & Holosko (2017)において紹介されているソーシャルメディアサイトや、Chan (2018)において紹介されている Facebook ページなどは、社会的に孤立しがちな状況にある若者を社会資源に接続する取り組みとして注目に値する。しかし、その効果についての測定は途上にある。（2）については、Bettmann (2021) にて示されているように、過度なソーシャルメディアの使用によるメンタルヘルスへの悪影響に留意が必要である。

5. 考察

ソーシャルワークにおけるソーシャルメディアには一定の有用性があるものの、PDCA サイクルにより運用するための効果測定が次の課題となるともいえる。また、健康悪化や、偽情報の拡散による教育上の悪影響を回避するには、刻一刻と変化するソーシャルメディアの実態にあわせたメディアリテラシー教育の開発が肝要といえる。

引用文献

- Bettmann, J. E., Anstadt, G., Casselman, B., & Ganesh, K. (2021). Young adult depression and anxiety linked to social media use: Assessment and treatment. *Clinical Social Work Journal*, 49, 368-379.
- Chan, C. (2018). Analysing social networks for social work practice: A case study of the Facebook fan page of an online youth outreach project. *Children and Youth Services Review*, 85, 143-150.
- Chan, C., & Holosko, M. J. (2017). The utilization of social media for youth outreach engagement: A case study. *Qualitative social work*, 16(5), 680-697.
- 宮本太郎. (2023). 「特集の視点」. 『月刊福祉』 106(11): 11.
- 総務省. (2018). 『平成29年 通信利用動向調査報告書 (世帯編)』.
https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/pdf/HR201700_001.pdf